

は し が き

IoT、AI、ビッグデータなどデジタル化の動向に関心が集まっています。これまで遠い未来のことと思われていた世界が急に身近に感じられるようになりました。技術革新に伴う雇用の展望に関しては、楽観論、悲観論を交えて見方はさまざまですが、労働をとりまく世界も新たな時代を迎えつつあるように感じます。一方で、シェアリング・エコノミーなどの新しいビジネスモデルの出現は、従来の法的枠組みでは対応できない問題を顕在化させました。特にアジア等における新興諸国においては、従来先進工業国がたどってきた発展プロセスを経ず、一足飛びに最新のビジネスモデルを導入する動きが見て取れます。産業構造の急激な変化は、就業構造に今後どのような影響を与えていくのでしょうか。

わが国では政府主導による働き方改革の議論が始まっています。未来の社会を担う子どもたちのためにも、持続可能なよりよい社会の構築を目指した議論が望まれるところです。そのためには、正確かつ客観的なデータに基づく議論が必要となります。

本書は、こうした世界の経済情勢、雇用情勢を踏まえ、政策課題の共通化がますます進む労働問題、雇用問題について、日本と諸外国の実態がわかりやすく理解できるように編集した「国際比較統計集」です。本書は年刊として、すでに18年にわたり刊行を続けてまいりました。この間、OECD（経済協力開発機構）やILO（国際労働機関）等国際機関の努力により、各国の労働統計は精緻な国際比較が可能なように一段と整備が進められています。本書を編集するに当たっては、こうした成果を可能な限り反映させるべく努力しています。また、数値統計情報だけでなく、各国の主要な政策・制度を比較するのに便利な国際比較制度表に注力しているのも近年の特徴です。必要な時にいつでもご活用いただける統計集を目指し、本書の改善に引き続き努めて参る所存です。

今後ともご愛読のほど、よろしく願いいたします。

平成30年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
調査部長 天瀬 光二